

「第18回 製薬協フォーラム」を開催

「第18回 製薬協フォーラム」は、2017年11月30日、経団連会館において、国会議員、行政、関係団体、オピニオンリーダー、患者団体、および報道関係者等300名以上の招待者の出席を得て開催されました。当フォーラムは、製薬協に関係する各界のリーダーと会員会社の代表者が一堂に会して意見交換を行うことを目的として毎年この時期に開催されます。これまでの演者は科学系の方が多かったのですが、今回は趣向を変えキャノングローバル戦略研究所研究主幹の宮家邦彦氏を招き、講演をお願いしました。



会場風景

第一部 講演会

キャノングローバル戦略研究所研究主幹の宮家邦彦氏による「地政学と日本の大戦略」と題する講演は、外務省勤務時代の海外在住経験を含め、現在および将来の諸外国の地政学的な検証を交えたものでした。以下にその概要を記載します。

2016年5月に開催されたG7伊勢志摩サミットに出席した7カ国首脳のうち、現在もその地位にいる首脳は日本の安倍首相をはじめ、ドイツのメルケル首相とカナダのトルドー首相の3者だけです。このような状況下で、グローバルにおける日本の果たす役割は大きなものとなっています。

「地政学リスク」という文言をよく見たり聞いたりしますが、これはエコノミストが自ら理解できない国際情勢や因果関係を、さらには説明がつかないときによく使う文言です。地政学リスクより各国が抱える内政リスクを理解することが重要です。米国、欧州（EU、英国等）、アジア（中国、韓国、北朝鮮等）、中近東（サウジアラビア、シリア等）におけるリスクは、各国が抱えるダークサイドに起因しています。このダークサイドが



キャノングローバル戦略研究所
研究主幹 宮家 邦彦氏

国家間にあつれきを生じさせ、自国第一主義を増長させています。具体的には米国と北朝鮮問題、中国と北朝鮮問題、日本と中国の尖閣諸島問題等があります。10～20年先を予想して、日本として業界として企業として戦略を構築することが重要です。

講演終了後、会場からはEUにおけるヘルスケア戦略や中国における医薬品のレギュレーションに関する質問があり、演者は丁寧に答え活発な意見交換がありました。

製薬協は、革新的で有用性の高い医薬品の開発と製薬産業の健全な発展を通して、日本および世界の人々の健康と福祉の向上に貢献することを目指す研究開発志向型製薬企業の団体です。世界最先端の医療技術・サービスの実現、健康寿命世界一の達成はもとより、健康・医療分野に係る産業が戦略産業として成長し、我が国の経済成長へ寄与したいと考えています。

第二部 懇談会

懇談会では、製薬協の畑中好彦会長が来賓ならびに国会議員、行政、関係団体、オピニオンリーダー、患者団体、および報道関係者等へ日頃の製薬協の活動へのご支援、ご理解に感謝する挨拶がありました。

続いて来賓として、厚生労働省を代表して厚生労働副大臣の高木美智代氏が、個別化医療やがんゲノム医療に役立つ創薬のための環境整備や薬価制度の抜本的改正について、日本医師会を代表して常任理事の温泉川梅代氏が、医療の最適提供と薬の最適使用について、日本薬剤師会を代表して会長の山本信夫氏が、新薬の価値とコストについて、患者団体を代表して全国がん患者団体連合会理事長の天野慎介氏が、がん対策基本法に触れて挨拶がありました。



厚生労働副大臣
高木 美智代 氏



日本医師会 常任理事
温泉川 梅代 氏



日本薬剤師会 会長
山本 信夫 氏



全国がん患者団体連合会 理事長
天野 慎介 氏



日本製薬団体連合会 会長
多田 正世 氏



製薬協 畑中 好彦 会長



製薬協 中山 譲治 副会長

日本製薬団体連合会会長の多田正世氏の乾杯の発声で開宴となり、その後、多くの国会議員から製薬産業に対する期待と激励の言葉を頂戴しました。満員の会場は多くの参加者の熱気が溢れ、懇談の輪が会場いっぱいに広がりました。終宴にあたっての製薬協の中山譲治副会長挨拶の後も歓談が続き、大盛会のうちに第18回製薬協フォーラムを無事終了することができました。



懇談会の様子

(事務局長 住田 高志)